

国民健康保険・後期高齢者医療保険 保険証の新規発行を終了します

▶保険証の新規発行がなくなります

法改正により、令和6年12月2日から、現行の国民健康保険被保険者証、後期高齢者医療被保険者証の発行がなくなります。

▶発行済みの保険証について

お持ちの保険証については、経過措置により、記載されている有効期限（令和7年7月31日）まで使えます。※転居・資格異動などで記載内容に変更がある場合を除く

令和7年7月までに70歳になられる人や、後期高齢者医療保険に移行する人などは、有効期限が異なります。

▶令和6年12月2日以降の対応について

現行の保険証の有効期限後、新規加入、再交付、券面の内容が変更となる人については、次の対応を予定しています。

令和7年7月31日が有効期限の保険証をお持ちの人には、令和7年7月に送付予定となります。

マイナ保険証をお持ちでない人

マイナ保険証をお持ちでない人には、保険証の代わりとなる「資格確認書」を交付します（申請不要）。

「資格確認書」は、国民健康保険については現行の保険証と同様のカードサイズ、後期高齢者医療保険についてはハガキサイズです。医療機関などの窓口で提示することで、保険診療を受けることができます。

マイナ保険証をお持ちの人

マイナ保険証をお持ちの人は、被保険者資格などを簡易に把握できるよう「資格情報のお知らせ」（資格情報通知書）を交付します（申請不要）。

「資格情報のお知らせ」だけで医療機関を受診することはできませんが、マイナ保険証の読み取りができない医療機関などにおいて、マイナ保険証とともに提示することで受診することができます。

後期高齢者医療保険に加入の人は、令和7年7月31日までは、マイナ保険証をお持ちの人であっても暫定的に「資格確認書」が交付されます。

マイナ保険証をお持ちの人でも、マイナンバーカード紛失の場合や、介助が必要な場合などでマイナ保険証の利用が困難な人については、申請により「資格確認書」を交付します。

※申請により、マイナ保険証の利用登録を解除することができます。

▶マイナ保険証を利用するメリット

- ・過去のお薬情報や健診のデータをもとに最適な医療を受けることができます。また、自身でもマイナポータルから確認できるので、健康管理に役立ちます
- ・紙の保険証と比べて、医療費が20円節約できます
- ・事前に限度額認定証などの交付を受けなくても、高額療養費制度における限度額を超える医療費の支払いが免除されます
※福祉医療(心身障害者、子ども、母子・父子、垣老)に該当されている人の受給資格者証などについては、マイナ保険証を利用して受診する場合でも引き続き医療機関への持参・提示が必要です

▶マイナンバーカードの取得は任意です

マイナンバーカードは、申請に基づき交付されるものであり、取得は任意です。マイナ保険証をお持ちでなくても、引き続き医療を受けることができます。

▶社会保険に加入の人へ

社会保険に加入している人も同様に保険証の新規発行がなくなります。詳しくは、ご加入の健康保険にお尋ねください。



国民健康保険資格確認書



後期高齢者医療資格確認書

＜問合せ先＞

国民健康保険／国保医療課 国民健康保険グループ（☎47-8132）

後期高齢者医療保険／国保医療課 福祉医療・後期医療グループ（☎47-8140）

社会保険に加入中の「垣老」の人・もうすぐ「垣老」の人へ

▶「資格情報のお知らせ」を大切に保管してください

これまで、社会保険に加入している人の「垣老」受給者証の新規交付・更新の際には、「高齢受給者証」で負担割合の確認を行っていました。

令和6年12月2日以降の保険証の新規発行終了に伴い、ご加入の健康保険の取扱いにより、「高齢受給者証」が発行されない場合は、代わりに「資格情報のお知らせ」で負担割合の確認ができますので、社会保険に加入している70歳から74歳の人は、届いたら大切に保管するようにお願いします。なお、今後「垣老」の対象となる人の新規交付の案内は、71歳になる誕生月の前月に、市から郵送します。

詳しくは、国保医療課 福祉医療・後期医療グループ（☎47-8140）へ。

市民病院・豊田院長の 健康コラム No.8

前立腺がん ～治療は手術だけではありません～

皆さん、こんにちは！市民病院院長の豊田秀徳です。健康コラム第8回をお届けします。

今回は、男性特有のがん、前立腺がんについてお話しします。前立腺は尿道の根本のところにある男性特有の臓器です。

前立腺がんは、皆さんが持っている一般的ながんのイメージと少し違った性質を持っています。それは、非常に多くの人が発症するという点、がんになっても多くはすぐに死に結びつきはしないということ、手術で切除することが常にベストというわけではないということなどです。

前立腺がんの患者さんは、診断後も9割以上が10年以上生存されます。もちろんがんなので進行し、骨などに転移して生命に関わる人もいますが、適切に管理すなわち検査や治療をすることで急に命取りになることはありません。

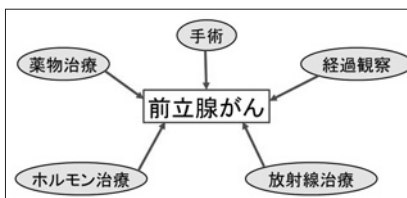
「がんなんだから一刻も早く手術で取り除かなければ」というのは前立腺がんには必ずしも当てはまりません。前立腺がんには手術以外にも放射線治療や薬物治療、ホルモン療法など、手術に負けない効果のある治療法があります。またすぐに治療を開始するのではなく、病気が進行しないように監視しながら経過観察することが一番いいという場合もあります。一方で手術をすると尿漏れなどを引き起こすこともあり、その結果不快で生活しづらくなることがあります。

市民病院には前立腺がんの専門家の先生がおり、多くの患者さんの前立腺がんの手術を行っています。現在、前立腺がんの手術はダヴィ



ンチで行うのが主流ですが、先生はこのエキスパートでもあり、合併症もほとんどありません。ただ、何でもすぐ手術で治療するのではなく、その時の患者さんの年齢や体力・がんの状態などを総合的に評価して、どうするのがいいのかを冷静かつ正確に評価し、手術をするにしても最も適した時期を判断してくれます。前立腺がんの場合は、医師と患者さん・ご家族がよく相談し、最適な治療方法を決めていくことが最も大切です。市民病院では手術・放射線治療・薬物治療など前立腺がんに対するあらゆる治療が可能です。先生とよく相談して治療をしていきましょう。

前立腺には「PSA」という、前立腺がんができた場合にだけ上昇する腫瘍マーカーがあります。この上昇がきっかけで前立腺がんが早期に見つかることも少なくありません。採血だけで済みますので、一度検査を受けてみることをお勧めします。いくら急には悪くはならないがんであっても、知っていて管理しているのと知らずに放置しているのでは大きな違いです。そして、もし前立腺がんという診断を受けてもあせらず、専門家とよく相談して方針を決めていくことをお勧めします。



コラムで取り
上げてほしい話
題などは、入力
フォームへ



入力フォーム

▲患者さんの年齢や体力・がんの状態により異なる、前立腺がんのベストな治療法